

リサイクル事業者等に対するアンケート調査結果の概要

1 道内リサイクル事業者

(1) 平成15年度調査

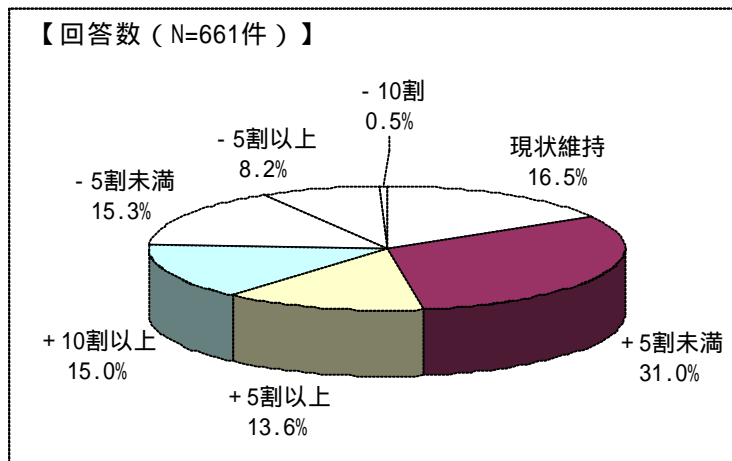
ア 調査概要

- ・ 調査の対象：道内廃棄物処理業者、情報交換制度登録事業者等
- ・ アンケート票発送数：1,311事業所
- ・ アンケート調査回収数：799事業所
- ・ アンケート調査実施時期：平成15年10月

イ 調査結果

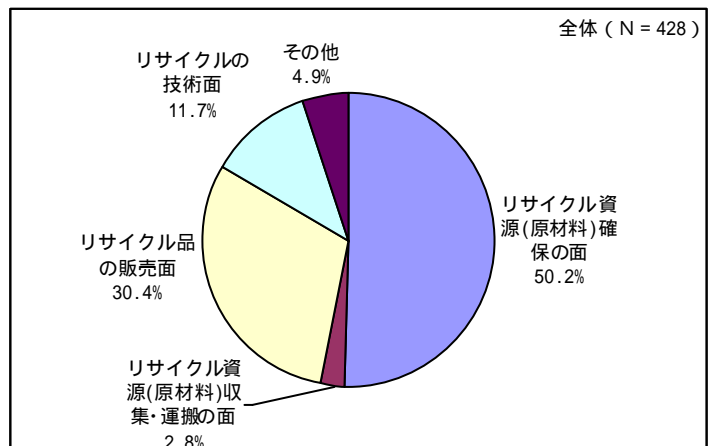
およそ5年後を見通した受入量の増減

約60%の事業者が今後5年先の循環資源の受入量について「増加する」としている。その増加率が10割以上とする事業者は15%、5割～10割とする事業者は14%となっており、積極的な意向・計画を持つ事業者が多い。

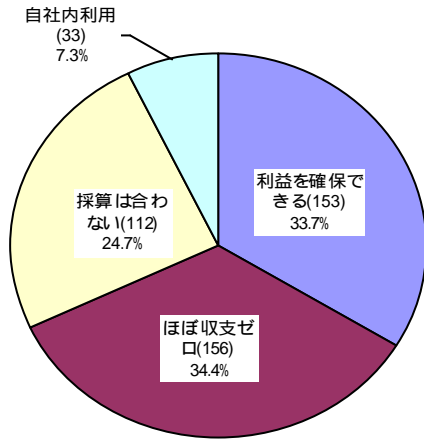


リサイクル事業における最大の課題 (単回答)

「リサイクル資源の確保」(50.2%)が最も多く、次いで「リサイクル製品の販売面」(30.4%)となっている。



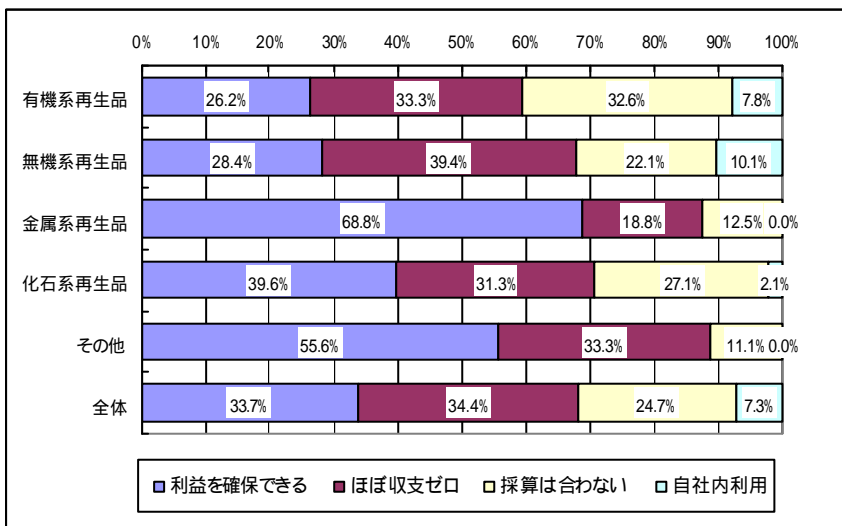
## リサイクル事業の採算性



リサイクル事業の採算性については、約 1 / 3 の事業者が「利益を確保できる」としているが、「ほぼ収支ゼロ」と「採算は合わない」を合わせるとほぼ60%が採算的には厳しいと認識している状況が伺える。

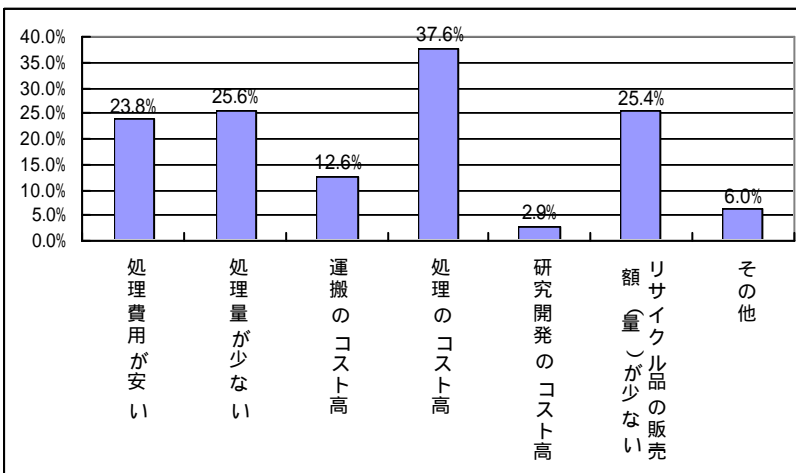
注；無回答を除いた454事業所の構成

## 再生品の種類別リサイクル事業の採算性



再生品の種類別にみると、50%以上の事業者が「利益を確保できる」としているのは、金属系及びその他再生品事業者であり、それ以外は「ほぼ収支ゼロ」もしくは「採算は合わない」状況にある。

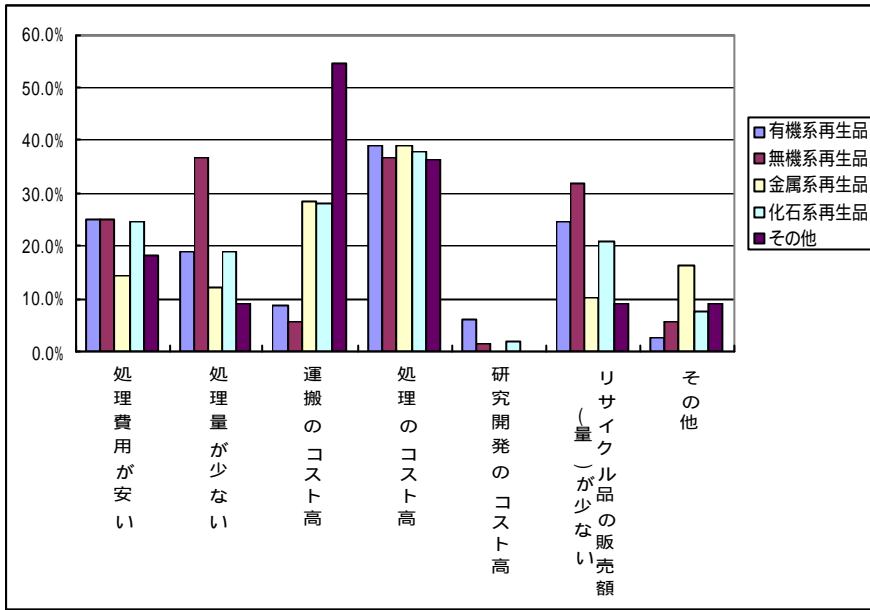
## 採算性に対する具体的課題



採算性が課題となっているその要因をみると「処理のコスト高」をあげる事業者が最も多く 37.6%を占めており、次いで、「処理量が少ない」「販売額(量)が少ない」の順となっている。

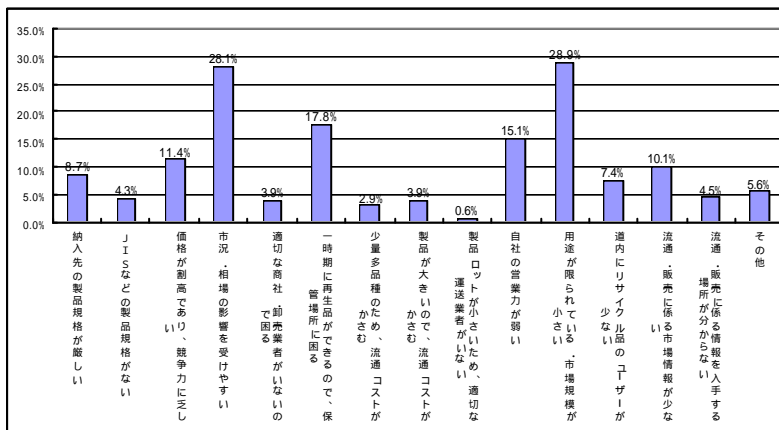
(484事業所 複数回答)

## 再生品の種類別にみた採算性に対する具体的課題



再生品の種類別にみると、その他再生品以外の再生品を製造する事業所では、「処理のコスト高」を採算性の課題としてあげる事業所が多くなっており、その他再生品では「運搬のコスト高」をあげる事業者の割合が高くなっている。

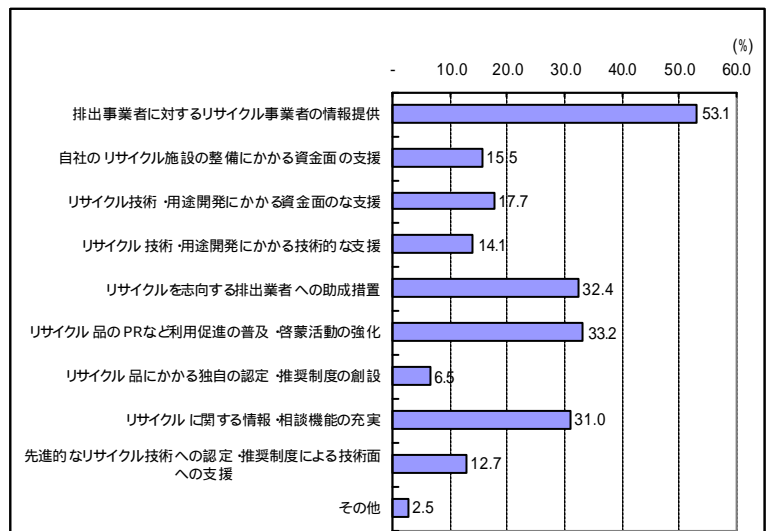
## 再生品の流通・販売面での課題



再生品の流通・販売面での課題を詳細にみると、「用途が限られている・市場規模が小さい」とする回答が最も多く、28.9%となっており、次いで、「市況・相場の影響を受けやすい」(28.1%)、「生産時期が限られるので保管場所に困る」(17.8%)、「自社の営業力が弱い」(15.1%)、「価格が割高で競争力に乏しい」(11.4%)の順となっている。

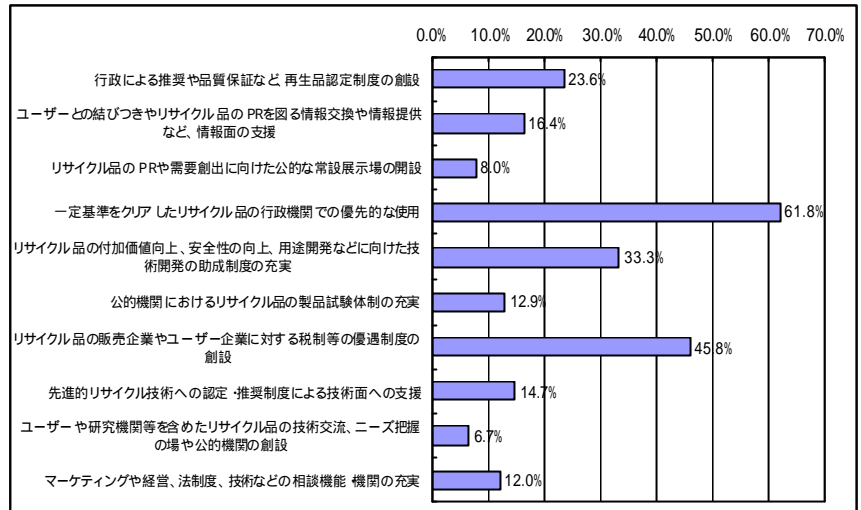
## リサイクルを促進する上での行政に対する要望（複数回答）

「排出事業者に対するリサイクル事業者の情報提供」(53.1%)が最も多く、次いで「リサイクル品のPRなど利用促進の普及・啓蒙活動の強化」(33.2%)、「排出事業者への助成措置」(32.4%)となっている。



## 流通・販売面における行政への要望（複数回答）

「一定基準をクリアした製品の行政機関での優先的な利用」（62.1%）が最も高く、次いで「販売・ユーザー企業への税制等の優遇制度の創設」（45.5%）、「技術開発の助成制度」（33.5%）、「再生品認定制度の創設」（23.7%）となっている。



## (2) 平成14年度調査

### ア 調査概要

- ・ 調査の対象：道内廃棄物処理業者等
- ・ アンケート票発送数：630 事業所
- ・ アンケート調査回収数：397 事業所
- ・ アンケート調査実施時期：平成 15 年 1 月

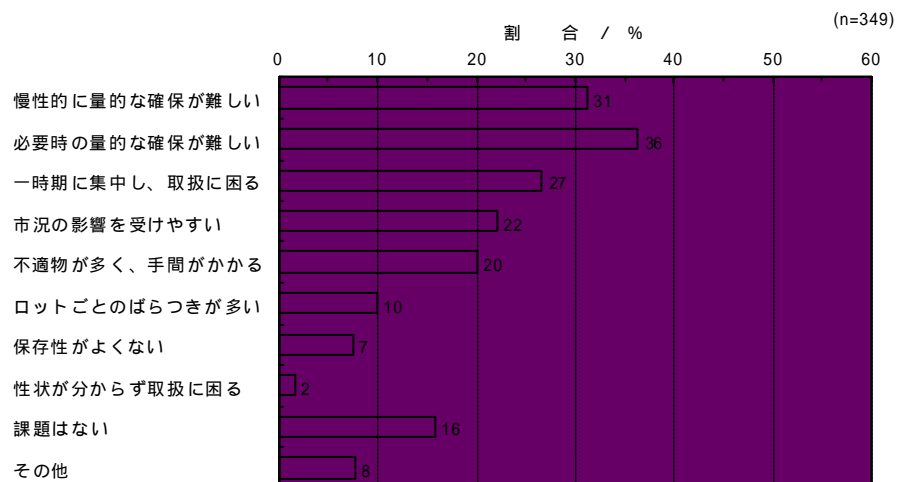
### イ 調査結果

#### 原材料の確保に係る課題

原材料の確保に係る課題についてみると、「必要時の量的な確保が難しい」が36%と最も多く、次いで、「慢性的に量的な確保が難しい」が31%、「一時期に集中し、取扱に困る」が27%、「市況の影響を受けやすい」が22%、「不適物が多く、手間がかかる」が20%などとなっている。

これらのことから、原材料の量的な確保や原材料の時期的な変動に関する課題を挙げる事業者が最も多くなっており、その他、原材料の価格に関する影響や分別作業に関する課題を挙げている。

#### 原材料の確保に係る課題（複数回答）



## 2 道内廃棄物排出事業者

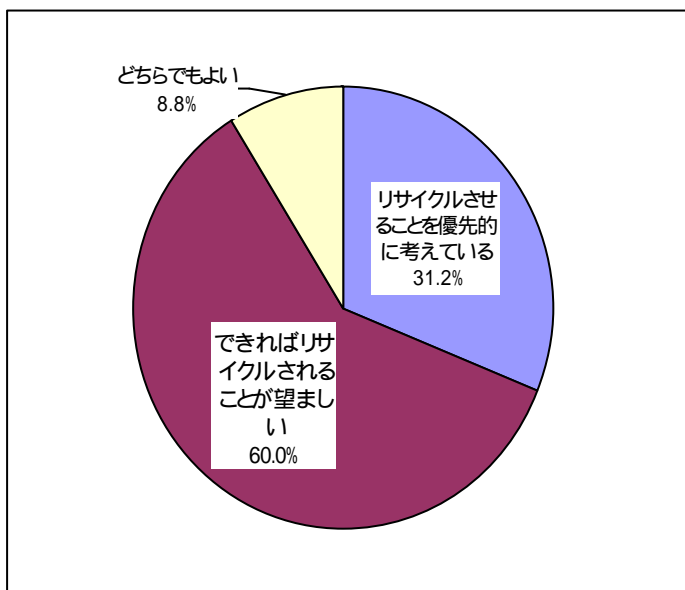
### (1) 調査概要

- ・ 調査の対象：道内産業廃棄物排出事業者
- ・ 平成 14 年度北海道産業廃棄物実態調査においてアンケート調査を実施
- ・ アンケート票発送数：19,696 事業所
- ・ 有効回答事業所数：2,659、1,288 事業所
- ・ アンケート調査実施時期：平成 15 年 11 月

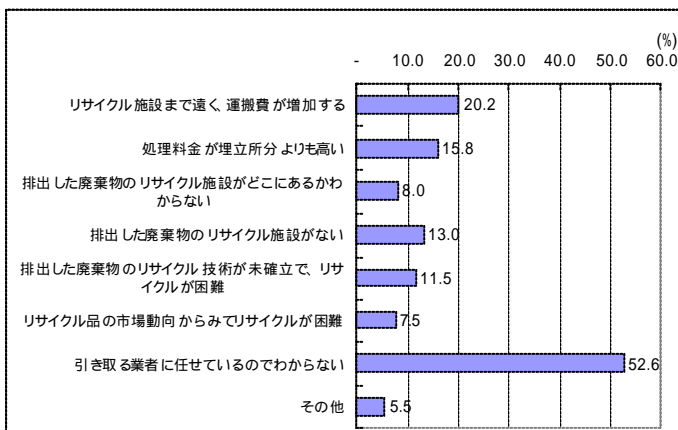
### (2) 調査結果

#### 事業者の意識

廃棄物の処理方法の考え方として、ほとんどの産業廃棄物排出事業者が、リサイクルについて積極的な考え方を持っているが、一方で、半数以上の事業者が、積極的な行動は行っていない状況にある。



廃棄物の処理方法の考え方  
60%の事業者が「できればリサイクルされることが望ましい」とし、31.2%が「リサイクルさせることを優先的に考えている」としており、リサイクルに積極的な考え方を持っている事業者が多い。



#### リサイクルに関する支障

半数以上が「引き取る業者に任せているのでわからない」としているほか、「リサイクル施設まで遠く、運搬費が増加する」とする事業者が20.2%、「処理料金が埋立処分よりも高い」が15.8%となっている。

北海道環境生活部環境室循環型社会推進課

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111 内線24-318,320

FAX 011-232-4970